

「新第 5 次振興計画素案」に係る地域説明会における質疑概要

日時	H23. 1. 31 19 : 30~21 : 00
会場	文化センター 第 3 研修室
出席者数	16 名
質疑の内容<◇質問者、○副市長、●総合政策課長>	
<p>【計画の優先順位】</p> <p>◇ すべての重点プロジェクトの中で何を優先的にやっていくのか、優先順位は考えていないのか。</p> <p>○ 大前提として今回の基本構想と基本計画は方向性を皆さんで協議していただいて振興審議会で決めていく。方向性が決まるとこの下に具体的に実施計画を策定する。平成 23 年度から 3 年間の計画で、各年度において何を取り組んでいくかを決めていく。事業によっては 10 年計画等の長期間の計画もある。この方向性に基づいて実施計画を作っていく。その中ですぐ取り掛かれるものとそうでないものがある。例えば長岡山の計画などをみると、つつじや桜の植栽はすぐできると思うが、アクセス道は用地買収や工事などもあり時間を要する。このようなことについては実施計画の中で討議していきたい。全体の計画の中では 7 つの重点プロジェクトをなるべくこの 5 年間のうちに目途をつけたり事業を終わらせたり早く進めていきたい。</p> <p>【これまでの計画の実施状況】</p> <p>◇ 前の第 5 次振興計画の実施状況はどのようになっているのか。その評価や反省点を踏まえての今回の計画だと思うがどうなのか。</p> <p>○ 振興計画は 10 年計画で、これまでの策定は夢を語るようなものが多かったが、今回の第 5 次あたりから世の中が非常に厳しくなって現実的なことをできるだけ積み重ねていきましょうという流れになってきた。第 5 次振興計画の最初の 4 年間はリーマンショックによる世界的同時不況等の影響により雇用悪化等世の中の変動が目まぐるしく、国の施策の方向性も大きく変わった。市の財源等で市独自でやっていければよいが、3 割程度の自主財源などの問題もあり、国や県と施策の方向性を合わせていかなければならず、市だけでは厳しい。これまでの第 5 次振興計画の基本的な部分は踏まえても、新計画については新しい状況に変わった部分は付け足しや重点を変えたりやっていくが、基本的な姿勢は前の 10 年計画と同じ流れである。評価については、今回の検討のために、これまでの 5 年間の実施状況について市民から評価をもらうアンケートを実施したので、それについて。</p> <p>● アンケート調査の中で一番多かったのは寒河江の元気がないことがまずある。道路関係、特に除雪関係も意見が多かった。雇用関係の満足度も低い。高齢者子供から女性まで安全安心な暮らしについての意見も多かった。</p> <p>振興審議会の中で、現在の(18 年度作成の)計画の進捗について整理をして資料として出し、審議してもらった。</p>	

【アンケート結果の公表】

- ◇ アンケート結果は市民の方々に市報等で開示しているのか。18 年度に作成した計画と基本的な流れには変わらないとのことだが、見直しにあたって、アンケート結果等は公表しているのか。
- 市のホームページで公表している。振興審議会の資料等も出している。内容をまとめた資料になっている。
- ◇ 重要なことなので、市報などに出してもらえないのか。
- 相当数の内容なので市報の紙面の都合で難しい。
- ◇ 紙面の都合ということだが、重要なものなので、お金をかけてもよいのでは。
- 市報の中では、答申案が出て策定した後は紙面の都合上、このダイジェストのダイジェストという形になるができるだけわかりやすく、この計画のねらいや重点などお知らせしていきたい。なお詳しく知りたいという方は図書館や文化センターに来ていただければ計画のすべてがもらえるようにするなど、市報を窓口にしてアプローチできるような形にしていきたい。

【ワンデイレスポンス運動】

- ◇ その他の項目で、『ワンデイレスポンス』とは？
- 一日で返事を返すこと。全庁的に取り組んでいる。電話等で市民からの要望問い合わせ苦情等にその日のうちにYESかNOかまたは何日か中に返事するとか、そういった姿勢で臨んでいる。
- ◇ 市役所に行って何か問い合わせして、すぐ返事がもらえるとか、職員のあいさつがいい等は気分がよく、市民との接点において大切なこと。経験上、問い合わせに対して、はきはき答えてくれる市町村は活気がある。逆に、活気のないところは、応対も悪い。『ワンデイレスポンス』、ぜひお願いしたい。

【雇用】

- ◇ 重点プロジェクトに雇用拡大があるが、雇用の関係、工業団地はどのような状況か。
- 現在 150ha ほどあるが、既存のところは埋まってきている。新しく 20ha 程を新しい企業誘致を進めていたが、リーマンショック等このところの不況で企業側は雇用調整等で手いっぱいの状況だったが、ここにきて少しずつ動きが出てきている。自動車等輸出関連は、円高で海外現地に工場立地という傾向がある一方、内需型企業が土地を求めることも出てくるので、新しい 20ha のところに企業を誘致して若年層の雇用につなげられるよう頑張っている。

【市立病院、下水道】

- ◇ 1番のいきいきと健やかに暮らせる地域社会の創造のところ区市立病院の経営改善計画についてと、3番の暮らしに便利な都市基盤づくりの4)暮らしを支える上下水道の整備で幸生田代を除く下水道整備予定が財政難により、昨年から市町村設

置型合併浄化槽になったと市報で知ったがどのような内容なのか。

- 市立病院の経営改善について、市立病院の常勤医師は現在9名で、通常120床の規模からいくと常勤医師が12から15名いて経営しなければいけない。民間医療機関は不採算部分はやらなくてもよいが、市立病院は救急対応体制を敷くなど不採算部門も抱えなければならず、儲からない体質と言え、その部分は税金を使ってやっつけていかなければならない。それにも限度があり、総務省のガイドラインでみると市立病院規模で3億円ぐらい毎年税を出すのが標準的だが、ここ1、2年はその倍の6億円を出さないと経営が続かない状況になっている。常勤医師の不足については山大の医局にお願いしているが、山大の医局そのものに医師が少ない。医師確保が非常に難しく、このような状況になっている。振興計画の検討と同時並行に、県立病院と市立病院のあり方について、県が主導で再建についての話し合いを持っている。それに基づいて改善のプロジェクトをやっていきたい。

下水道・合併浄化槽の件について、大きな管を埋めて伸ばしていくやり方は人口がある程度集中しているところは採算が合うが、人口密度の低いところは下水道建設の借金や使用料も上がらない等、採算が合わない時代になっている。また、合併浄化槽の性能が格段に良くなり、下水道処理にひけをとらないほどになっている。高松、醍醐、白岩、柴橋の一部では高い工事費を使って下水道整備するより合併浄化槽を各家に置いていくという計画の方が次の世代にも負担は少なくできる。国の方針も地域によってはどちらの方法を選択してもよい方針に変わってきている。市でも採算が合わない地域は同じような処理ができるのであれば合併浄化槽の方に切り替えたいという方向で考えている。切替えの計画は今年度末までに決まる。23年度に合併浄化槽でやる地域の計画を作り、24年度から進めていきたいと考えているところ。

- ◇ 下水管敷設がなくても負担金はあるのか。
- 来年度に計画を作っていくが、合併浄化槽も市が設置し、その使用料をいただくような形に考えている。従来事前に分担金という形をお願いしていたが、一軒ごとに一つの浄化槽を作るという制度の切替えなので当面の負担はもう一度計算をしてそれなりの負担をお願いする形になる。

【具体目標】

- ◇ 新第5次振興計画はこれから5年間の具体的目標を設定し、重点プロジェクト7項目すべてにおいて、それを目指すということか。
- 重点プロジェクトは基本構想、基本計画に基づいてやっていく。基本計画で各施策に具体的数値目標をたてて、例えば、保育所関係で待機児童22年度は15人。これを27年度には0人にすべく、保育所の整備とか認可外保育を認可保育に変えていくとか等やっていくということになる。重点目標の「さがえっこすくすくプロジェクト」等、基本計画の中で具体的目標をあげながらできるだけわかりやすく実施をしていこうというものである。

【市立病院】

- ◇ 市立病院経営改善プロジェクトについて、具体的に内容は。
 - 一つは総務省から話があり、改革アクションプランというものを組んだ。これは経営の数値目標で、アクションプランは3年間あって現在2年目。3年目で目標達成もなかなか容易でない数値になっている。その他に病院の改革のために、昨年、市立病院と市役所全体でこういう方向でやっっていこうという改善計画を立てている。この2本立てで改善をやっている。県と県立病院と寒河江市立病院があって、市立病院の西村山地域の医療供給体制どうしていくかという中での位置づけを話している。その位置づけが決まるとその方向性を持って、具体的なものやっっていく形になる。
- ◇ 公立病院経営は厳しい。医師不足、資金不足などの中、地域拠点病院として成長していかなければいけない。重要なことなのでよろしくお願いいたします。市立病院に入院したが、職員の対応が親切でなかった。職員の意識改革をぜひやってもらいたい。天童市立病院等、改善計画が成果を上げている。12月の市報等参考にしていただいてはいかがか。
 - ぜひ参考とさせていただきます。

【市の財政】

- ◇ 市民が主役のまちづくり、この中に行財政改革の推進がある。市の財政は相当厳しいと聞いている。財政調整基金は7億円ぐらいしかない一方で、負債は190億円ぐらい。貯金である財政調整基金の25倍から30倍ぐらいが借金。そういうことも踏まえて、かつ人口の減少なども踏まえて、新第5次振興計画をダイナミックにやってもらいたい。
 - 確かに借金は少ない方がよいが、市の一般会計の規模が約150億円で、借金が190億円なので2倍になっていない。寒河江市の場合は借金のための借金ではなく、いろいろな事業が集中した結果の借金が多い。それも借金に変わりはないが頑張っ返しているところ。平成15年度の時最高で250億円の借金であったが現在は190億円。まだまだ減らしてできるだけ次代には借金は残さないことを基本としますが、例えば学校は30年間使っ、30年間均等に各年代で負担していくといった意味合いの借金もある。あまりに委縮して、借金をしないため事業をしないなどといった逆の面もあるので、その辺のバランスを考慮しながらやっしていきたい。